

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームかがやき (両ユニット共通)	評価実施年月日	平成20年5月1日
評価実施構成員氏名	野村 省子      秋田谷 孝      松村 優		
記録者氏名	松村 優	記録年月日	平成20年5月19日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念はある。スタッフは、理念実現のために取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	玄関ホールに理念を掲示しているので、スタッフは、日々意識して仕事に取り組んでいる。		
<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関ホールの見やすい所に掲示しており、見学や入居の際は説明している。		
2. 地域との支えあい			
<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の方とは、顔を合わせると挨拶を必ずする様に職員が心掛けているため、気軽に立ち寄ってもらったり、ホームでの行事等に参加してもらっている。		
<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	2ヶ月に一回の会議の場を設け、町会などの親睦を図っている(盆踊りの参加、雑巾縫い)	○	今後は、ホーム内でパーベキュー等を行うなどして、近所の方に今以上の参加を呼びかけていきたい。
<input type="checkbox"/> 事業者の力を活かした地域貢献 6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の主な町内活動に参加して地域に貢献している。(地域のゴミ拾い等)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価をすることにより、自分たちの行っている事を見直しケア向上に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>実施された内容について、運営推進会議で反省、見直しを行いサービス向上に取り組んでいる。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村で行われる研修会等に参加しサービスの向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>研修会などには、出来るだけ参加している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束委員会を設けて日々防止に努めている。虐待等の記事が掲載された新聞等はコピーして回覧するなどしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>常に入所する方、家族と話し合い十分な説明を行い、理解、納得して頂けるように図り、特に退去の際には、利用者、家族の立場になり説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御意見箱の設置をしている。要望等は、訪問時に受けられるようホーム側から気軽に声がけをしている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会の際に近況報告を行っており、金銭管理については、請求書と一緒に明細を同封している。	○	面会に来られない家族には、定期的に利用者の生活ぶりなどを手紙や写真で送付したい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御意見箱は、設置しており、いつでも受付ている。運営推進会議には、家族の参加をお願いし意見を聞く機会を設けている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議を一月に一回設けている。毎日の朝礼で意見交換が出来る時間を設けている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	朝食後あるいは、夕食後にも希望があれば、入浴を可能なように勤務調整している。起床時、就寝時等に十分な支援ができるように考慮している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ホーム開設時からのスタッフが中心となって馴染みの関係が築けるように最大限に努力している。また、新人スタッフに対しても先輩職員が十分な情報交換を行い支援している。職員の異動に関して利用者及び職員の負担が最小限になるように常に相談しながら、行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>事業所内では、月に一度研修会を行っている。また、事業所外での研修にも積極的に参加している。</p>	<p>○</p> <p>現在、緩和ケア補完的な手法でタクティカルケアを一部のスタッフで導入して始めているが、今後は、職員の研修者数を今以上に増やし実施していきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>北海道グループホーム協議会に入会し情報交換を行っている。また、介護支援専門員の研修会にも参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>施設内にスタッフルームがあり、常に意見交換を行っている。いつでも相談に応じられるように時間を作っている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>理念の理解のため研修会等を開催し取り組んでいる。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面接を行う機会を作り最大限受け止める努力をしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>基本情報をもとに現在の状況を把握し、どのように対応が出来るかを説明している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人や家族の思い状況等を確認し他のサービス利用も出来るように対応している。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	時間をかけホーム見学、面接などを行い納得した上で利用開始が出来る様努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の生活歴などから、得意な事や好きな事を知り、それも一緒に行うことで支えあえる関係を築けるようにしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時に情報を交換し同じ思いで支えていきたいという事を伝えている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	本人の思いをくみとり家族へ伝え両者の関係がより良くなるように努めている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の了解のもと友人、知人等がいつでも、面会に来れるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係が上手くいくようにスタッフが情報を共有し、トラブルにならない様、スタッフが間に入ったりしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も利用者や家族が必要とするサービス情報の提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所の際、家族、本人の希望を聞き日々の記録の中から希望、意向にそえるように心がけている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	上記に同じく把握につとめケアプランに生かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	介護記録を使用し申し送りを行っている。ちょっとした変化や気がついた事など、どんな小さな事でも申し送り、現状把握につとめているが、時々十分に利用者向き合えないこともある。	○	十分に時間をかけ利用者向き合えるように把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成担当者が家族、本人の希望を聞きアセスメントを行い、職員間でもカンファレンスを行って介護計画の作成に役立てている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	努力し取り組んでいる。	○	迅速にレベル低下などが反映されたケアプランの見直しができるように頑張りたい。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の日々の様子を個別に記録に記入している。申し送り以外にも連絡帳などを活用し職員間の情報共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族の状況やその時々々の要望に応じて事業所として出来る限り要望をかなえられるように様々な取り組みを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	施設で行事がある時はボランティアにお願いしたりと地域を協力しながら支援している。	○	地域住民の協力も得られるよう避難訓練に取り組んでいきたい。
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の希望により、定期的に訪問理・美容サービスを利用したり、デイケア・訪問マッサージ等も利用している。		
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	2ヶ月に一度運営推進会議が行われており、その中で情報交換が行われている。包括支援センターが主催している研修会に参加している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	定期的にかかりつけ医による往診、受診が出来るよう支援している。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	往診してくれる専門医がスタッフの相談にのってくれ適切な指示を受けている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	事業として定期的に医療と連携をとっており、看護師の訪問時には、気軽に相談し情報を交換している。また、日常の健康状態の管理や緊急時の対応においても必要に応じて一緒になって支援を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	万が一に利用者が入院した場合は、病院と常に情報交換を行い、本人の状態を把握し、早期退院が出来る様に病院と連携体制をとっている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について、出来るだけ早い段階でご家族及びかかりつけ医と常に連携をとり御本人様にとって一番良い方法をスタッフ全員で考え、それに向けて最大限努力をしている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化した場合や終末期のあり方について、かかりつけ医及び事業所や御家族と相談し合い出来る事や出来ない事を常に見極め、かかりつけ医ができる事、事業所ができる事、ご家族が出来る事を一緒に考え十分な検討及び準備をし、事業所としての出来る限りの支援が出来るように努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>情報提供を密にし、その後の要望にも出来るかぎり答えられるようにしている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>一人一人の誇りプライバシーを尊重し声かけを行えるよう努力している。</p>	○	<p>常に意識して対応に努めたい。個人情報の取り扱いには、特に注意する。</p>
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>出来る限り、利用者の要望を聞いたり、選んでもらったりして対応している。意見や訴えなども聞き出来る限りの対応をしている。本人が自己決定、選択出来る場をより、多くもてるように努めている。</p>	○	<p>さらに取組んで行きたい。</p>
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>日々の業務の流れでスタッフの都合を優先する事もあるが、出来る限り個別性のある支援を行っている。(散歩、入浴、買い物など)</p>	○	<p>さらに個別性のある取組みをしていきたい。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>散髪は、本人、家族の要望を聞き訪問理容を利用されたり、家族の協力のもとなじみの店を利用している。希望者には、マニキュアしたり行事の際には、化粧をしたり、おしゃれをしその人らしい身だしなみを支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一人ひとりの力を活かしながら、利用者とスタッフが一緒に準備、食事、片付けを行っている。利用者の好みの物が食べられるように配慮している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	買い物へ出かけた際、自分の好きなおやつを買ってもらっている。水分補給時には、好みのものを選んで飲んでもらっている。本人が望まれた時にお酒も飲んでもらっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄の時間帯、量、行動をチェックし、出来る限りその人の排泄リズムをつかみ誘導、声かけを行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は、毎日出来る体制になっており、希望する曜日、時間に合わせ、入浴が楽しめる様、支援している。また、利用者の好みの音楽をかけたり入浴剤を使用している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	個人の体調を観察し状態に合わせて夜の睡眠に支障のない様に休息して頂いている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を把握し力を活かせる仕事をお願いし、張り合いや喜びを感じてもらっている。利用者とスタッフが一緒に物事に取り組んでいけるように努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者の力に応じてお金を所持したり、使えるように支援している。また、買い物ツアーなどの際は、自分で支払えるように出来るだけ支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望があれば、スタッフと共に近所へ買い物に行ったり散歩に出たりと出来る限り、戸外に出かけられる様、支援を行っている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節、天候などを考慮し、個別又は利用者全員参加でドライブへ行く等の機会を作っている。また、普段から家族も参加出来る様な声かけ雰囲気作りを行っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	施設内では、電話は自由にかける事が出来ており、手紙等も利用者の希望通りに書ける様に支援している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会票を作成しており、日時を制限しておらず、いつ訪問されても気持ち良く過せる様に面会場所の配慮をしている。(ソファ、和室の開放等)状況によっては、スタッフも参加できる体制をとっている。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関しては、スタッフ全員が理解し常に心がけながら、ケアに取り組んでいる。身体拘束廃止委員会を設置してケアの実践に取り組んでいる。	○	他の機関での勉強会などにも、どんどん出席し勉強して行きたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は、居室、玄関に鍵をかけていない。スタッフ間で連携をとり見守りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングには、常にスタッフがおり、他のスタッフと連携をとりながら、利用者の所在や様子を把握している。夜間も夜勤者がこまめな巡回を行い安全に配慮している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者一人一人の状態に応じてスタッフ間で注意をし危険がない様に取り組んでいる。	○	今後も一人一人の状態を把握し常に危険の無い様、十分に注意を怠らない様にしていく。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人一人に応じて事故を防ぐ様、カンファレンス、ケアプラン等にて取り組んでいる。	○	事故が起きた場合は、事故報告を作成し事故防止委員会を開き今後の予防に努めている。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時、急変等に対するマニュアルはあるが職員全員が対応できる訓練は行っていない。	○	定期的に救急法の訓練を行い知識を高めていきたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者及び職員で一緒になって避難訓練を行い避難場所も確保できているが、今以上に定期的な訓練が必要だと思う。避難の際に地域の方に協力して頂けるように相談している。	○	推進会議で地域住民の協力を呼びかけ合同で避難訓練を行う予定である。利用者には、日頃から説明をしていく。防災委員会を設置しているので、マニュアルを整理していく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	面会時や担当者会議の際に家族等に説明し理解を得られるようにしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	バイタルチェックやコミュニケーションを行う中でちょっとした変化も報告しあったり、記録にも残しスタッフで共有し対応している。	○	一人一人の抱えている病状をしっかりと把握し医師や看護師からの指示などに対応できる様、常に平常心を保てるようにして行きたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人のお薬情報を熟知しており、服薬の支持を行っている。さらに服薬管理簿を作成し確認を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘を考慮した献立を立てており水分補給には、排便を促すよう牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖等を使用している。また、ケアプラン項目には、体操、散歩を入れている。	○	薬に頼らず、食事運動を中心とした取り組みをして行きたい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	口腔ケアを毎食後、スタッフがしっかりと管理しており、その都度状態観察を行っている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	日々の食事水分量を記録し、また状態観察しながら一日の量が確認できるように支援している。本人の好みのなどに応じている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	勉強会への参加、マニュアルの回覧、掲示などに努めている。委員会を設置しており、日々予防に取り組んでいる。	○	さらに講習会などの機会を増やし十分な対応を行って行きたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食事直前に調理する様にして、作り置きなどしない様になっている。食器や台所、調理用品など乾燥機やハイターを使用し乾燥や除菌を心がけている。遅番が最終確認を毎日行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関は、窓が多く明るく広い作りになっており、玄関までの緩やかな長いスロープがあり、車椅子でも安心できる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一般的に家庭で良く使用される家具を置く等といった配慮のほかに風呂などが利用者が安心して利用できるように家庭的な雰囲気や個別の浴槽を使用する等と空間作りに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人掛けのソファを設置し自由に移動が出来る家具の配置を考えて空間作りをしている他和室等といった場所でも個別に利用できる。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、自宅で使用していた物、使い慣れた物、愛着のある物の他、仏壇などもあり、家庭で過ごしているような環境になるように配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	施設内には、湿温計を備えており、常に換気を行うなどといった環境を整えている他暖房類も安全な物を設置している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	玄関スロープ、玄関、室内共にバリアフリーになっており利用者が安全に利用できるように手摺がついており、洗面所、台所には、車椅子でも利用出来る作りになっている。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室入り口に目印をつけ迷わない様にしている。トイレには、わかりやすいように日頃見慣れている表示をしている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	広い物干しスペースや玄関横の畑があり、天気の良い日などに利用者と物干しや畑の手入れ等を行っている。		

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>○①大いに増えている          ○②少しずつ増えている          ○③あまり増えていない          ○④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>○①ほぼ全ての職員が          ○②職員の2/3くらいが          ○③職員の1/3くらいが          ○④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての利用者が          ○②利用者の2/3くらいが          ○③利用者の1/3くらいが          ○④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>○①ほぼ全ての家族等が          ○②家族等の2/3くらいが          ○③家族等の1/3くらいが          ○④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)